

TGR TEAM ZENT CERUMO

2023 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJI GT 450km RACE

第4戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月5日（土） QUALIFY

公式予選結果 7位



2023年のSUPER GTは、鈴鹿サーキットで行われた第3戦から2ヶ月のインターバルを経て、TGR TEAM ZENT CERUMOの地元レースである第4戦を迎えた。そしてこのレースは、チームにとっても大きな意味をもつ一戦となった。1999年から長年チームを支え続けた立川祐路が、7月28日に2023年限りでのSUPER GT引退を発表したのだ。ファンに最後の走りを観て欲しい——そんな思いからこの発表のタイミングとなったが、TGR TEAM ZENT CERUMOがレーシングドライバー立川祐路とともに戦えるレースも、この週末含め5戦となった。

8月4日（金）には、トヨタ自動車佐藤恒治社長をはじめとした関係者、報道陣を集め立川の引退会見も行われた。SUPER GTは自分にとって『人生』と語った立川の最後のシーズンを良いかたちで締めくくるべく、チームはより一層の思いとともに8月5日（土）の予選日を迎えた。

酷暑が続く2023年の夏だが、この予選日も朝から晴天で、気温もグングンと上昇。やや風はあるものの、TGR TEAM ZENT CERUMOのスタッフ、ファン、そしてドライバーたちも大粒の汗を流しながら午前9時からの公式練習に臨んだ。ZENT CERUMO GR



TGR TEAM ZENT CERUMO

Supra は立川がステアリングを握りコースイン。まずはピットアウト～インを繰り返しながら、21 周を走り午後の予選に向けたセットアップを進めていった。このインターバルの2ヶ月で、エンジニアたちが見直してきたセットアップが功を奏し、ZENT CERUMO GR Supra の感触は良好だ。



途中からは石浦宏明が ZENT CERUMO GR Supra のコクピットに。終盤には GT500 クラスの専有走行が行われ、石浦はそのタイミングでアタックシミュレーションを行っていくが、いざ石浦がアタックに入ろうかというタイミングで、#39 GR Supra がダンロップコーナーでトラブルのためストップ。セッションはそのまま赤旗で終了となってしまった。

ライバルたちもほとんどがアタックができておらず参考タイムとなったものの、石浦は 16 周を走り、ZENT CERUMO GR Supra は 1 分 28 秒 890 というベストタイムで 3 番手で午前の公式練習を終えることになった。その後の FCY 訓練やサーキットサファリも活用しながら、午後の予選に向けてセットアップを続けていった。

ピットウォークでは多くのファンにサインをするなど、噛みしめるように立川は予選日を過ごし、午後 3 時 20 分からの公式予選を迎えた。Q1 から気温 30 度を超えるなか、まずは Q2 の立川に繋ぐべく、アタッカーを務めた石浦はコースイン後タイヤをウォームアップさせていった。

石浦はまずは 4 周目、1 分 28 秒 481 を記録し 3 番手につける。ライバルのタイムアップにともない少しずつポジションが下がっていくが、翌周、さらに ZENT CERUMO GR Supra のポテンシャルを解き放った石浦は、1 分 28 秒 273 へタイムアップ。これで 5 番手に浮上し、見事 Q1 突破を果たすことになった。今シーズン、ZENT CERUMO GR Supra が Q2 に進出するのは初めてのことで、そして GR Supra 勢で唯一の Q2 進出となった。



TGR TEAM ZENT CERUMO



少しずつ夏の夕暮れが近づくなか、ファン、そして TOYOTA GAZOO Racing 勢の期待を背負い Q2 に臨んだ立川は、数々の思い出が残る富士でのラストアタックに入っていた。4 周目、1 分 28 秒 326 というタイムを記録し、その時点での 3 番手につけたが、今回はライバル勢が速い。少しずつ ZENT CERUMO GR Supra の順位は下がり、最終的に 7 番手で終えることになった。

この結果、ZENT CERUMO GR Supra は 8 月 6 日（日）の決勝レースを中団から戦うことになった。GR Supra 勢最上位から、立川にとって最後の富士でのレースを良いかたちで終えるべく、TGR TEAM ZENT CERUMO は全力で決勝日に臨んでいく。

ドライバー／立川祐路

「僕にとって富士スピードウェイでの最後の予選でしたが、いつもどおり、変わらない気持ちでアタックしました。前戦はわずかにコースアウトしてしまい、タイムが抹消になってしまったりしたこともあったので、今回はきちんと自分の走りをしようとは思っていました。ミスなどはありませんでしたが、欲を言えばもう少し上の順位にいきたかったですね。7 番手という順位にはなりましたが、タイム差はすごく僅差ですし、クルマの状態は良いです。明日の決勝レースに向けて勝負ができる感覚はありますし、最後の富士スピードウェイでのレースで、表彰台に乗りたいですね」

ドライバー／石浦宏明

「今回、立川選手の引退発表もあり公式予選では大きな注目を集めていたので少しプレッシャーもありましたが、緊張しすぎても良いことはないですし、クルマの調子が比較的良かったこともあり、楽しもうと思って臨みました。Q1 突破はできると思っていましたし、立川選手にしっかりとインフォメーションを伝えられるようにアタックを行いました。とにかく Q2 にバトンを繋ごうと思っていたので、それができて良かったです。今回セットアップを大きく変えてき



TGR TEAM ZENT CERUMO

ましたが、フィーリングなど自分のドライビングスタイルと合う気がしています。ライバルメーカーが速く、相対的に上位には入ってはいませんが、感触としてはレベルアップしていますし、戦える感触があります。明日のレースも楽しみにしています」

村田淳一監督

「今回のレースに先立ち、立川選手が今シーズン限りの引退を発表しましたが、チームとしてもまだ最後のレースまでは5戦ありますし、最後のシーズンを良い成績で終え、有終の美を飾って欲しいと思っています。まずは今まで以上にトラブル等を起こさないように、セットアップも地道に取り組み、良いかたちで締めくくりたいです。今日については、今季Q1を突破できていなかったなかで、2ヶ月のインターバルの間にエンジニアがしっかりセットアップを見直し、新たなトライをしたことが奏功し、ドライバーも今までのネガティブな部分が消えてきている言っています。まわりが速かったこともあり7番手という結果ではありますが、まずまずの結果となったのではないのでしょうか。明日は天候がどうなるかは分かりませんが、良い位置にいることはたしかなので、これを無駄にしないようにしたいです。またレースストラテジーも大事になります。昨年までは特殊な状況でしっかり順位を守り、ロスをなくすことができていませんでしたが、それができるチームにしてきたつもりです。正念場のレースなので頑張っていきたいですね」



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

HEISEL

ELK HOMES

Felix88
RACING OIL

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

トヨタ東大

Jms

SHIMADA
BRAKE FLUID

AVP

TGR TEAM ZENT CERUMO

予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	1'27.763	1'27.935
2	16	ARTA MUGEN NSX-GT	1'27.813	1'27.858
3	8	ARTA MUGEN NSX-GT	1'27.852	1'28.025
4	3	Niterra MOTUL Z	1'28.114	1'28.448
5	17	Astemo NSX-GT	1'28.226	1'28.532
6	100	STANLEY NSX-GT	1'28.295	1'28.251
7	38	ZENT CERUMO GR Supra	1'28.326	1'28.273
8	64	Modulo NSX-GT	1'28.667	1'28.478
9	19	WedsSport ADVAN GR Supra		1'28.608
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra		1'28.708
11	14	ENEOS X PRIME GR Supra		1'28.764
12	37	Deloitte TOM'S GR Supra		1'28.802
13	23	MOTUL AUTECH Z		1'28.842
14	1	MARELLI IMPUL Z		1'29.238
15	36	au TOM'S GR Supra		1'29.436

